

「信濃デッサン館」

「無言館」

窪島誠一郎展



死んだわたしは／甦らないが／消滅した絵たちが／甦る／ということはある／どっちにしても／わたしの／死後、の／話だけれど

(窪島誠一郎「死後」より)

平成29年9月30日(土)～12月3日(日)

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
10月12日(木)は午後8時まで開館

休館日 毎週月曜日(10月9日は閉館)

10月10・11日(火・水)、11月7日(火)、11月24日(金)

入館料 一般 300円

高校生・小樽市内の高齢者(70歳以上) 150円

中学生以下 無料

主催 市立小樽文学館

〒047-1003-1 小樽市色内1丁目9番5号

電話 0134-32-2388

後援 小樽文学舎

窪島誠一郎講演会

主催

市立小樽文学館

協力

碑の会

札幌窪島会

とき

10月12日(木)

午後6時～8時

場所

窪島誠一郎展会場

※入館料が必要です。

「信濃デッサン館」「無言館」

窪島誠一郎展

窪島誠一郎氏は作家、エッセイスト、美術館経営者。

1941年、東京生まれ。印刷工、酒場経営などをへて、1964年、東京都世田谷に小劇場の草分け「キッド・アイラック・ホール」を設立。1979年、長野県上田市に夭折画家の素描を展示する「信濃デッサン館」を創設、1997年、隣接地に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を開設。2005年、「無言館」の活動により第53回菊池寛賞受賞。2016年、平和活動の業績にあたえられる第一回「澄和」フューチャリスト賞受賞。

おもな著書に『父への手紙』（筑摩書房）、『信濃デッサン館日記』Ⅰ～Ⅳ（平凡社）、『漂泊・日系画家野田英夫の生涯』（新潮社）、『無言館ものがたり』（第46回産経児童出版文化賞受賞・講談社）、『鼎と槐多』（第14回地方出版文化功労賞受賞・信濃毎日新聞社）、『無言館ノオト』『鬼火の里』（集英社）、『無言館への旅』『高間筆子幻景』『父 水上勉』『母ふたり』『白伝』をあるく』（白水社）、『夭折画家ノオト』『蒐集道楽』（アーツアンドクラフツ）など多数。

市立小樽文学館とは、1984年7月、小樽生まれの詩人で画家の小熊秀雄を紹介する特別展「しゃべり捲くれ——小熊秀雄の世界」で、窪島氏の協力と助言を得て以来の関わりがあります。

戦没画学生慰霊美術館「無言館」の開館20年目にあたる本年、「信濃デッサン館」「無言館」という強い個性を持ったミュージアムを運営し、芸術と人生についての思索を重ねてきた窪島誠一郎氏の著作と足どりを、多くの記録や周辺の証言でたどっていきます。

展示構成

- 1 父への手紙——生い立ち・ルーツを求めて
- 2 「明大前」物語——1960年代・東京
- 3 「キッド・アイラック・ホール」の青春——美術・音楽・小劇場
- 4 信濃デッサン館日記——「夭折画家」に魅入られて
- 5 日系画家の肖像——野田英夫を追いつづけ
- 6 無言館への旅——戦没画学生への鎮魂歌
- 7 絵画放浪——終わらない旅

会期 平成29年9月30日（土）～12月3日（日）

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

10月12日（木）は午後8時まで開館

休館日 毎週月曜日（10月9日は開館）、10月10・11日（火・水）、11月7日（火）、

11月24日（金）

入館料 一般300円 高校生・小樽市内の高齢者（70歳以上）150円

中学生以下 無料

主催 市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 電話 0134-32-2388

後援 小樽文学舎

窪島誠一郎講演会

主催 市立小樽文学館

協力 碑の会 札幌窪島会

とき 10月12日（木）午後6時～8時

場所 窪島誠一郎展会場

※入館料が必要です。